

アメリカ教育学会  
第 32 回大会プログラム

*Japan Association of American Educational Studies*

*The 32<sup>nd</sup> Annual Conference*

日時 : 2020 年 11 月 28 日 (土)

開催 : 誌上およびオンライン開催

主催 : アメリカ教育学会

## 大会日程・大会参加要領

### 1. 大会日程

11月28日（土）

### 2. 大会参加費

会員は無料。非会員は、1,000 円。

※会員は特に参加申し込みの必要はありません。

非会員の方は、第 32 回大会事務局までご連絡くださいませ。

アメリカ教育学会第 32 回大会事務局メール：32th.jaaes2020@gmail.com

### 3. 自由研究発表

自由研究発表は、例年の『発表要旨収録』に代えて、web 上での PDF の限定公開と発送予定の『発表論考収録』をもって、発表・報告とします。そのうえで、一定期間ウェブ上で質問やコメントを募り、大会事務局より発表者へ送付いたします。

※会員・参加者には、後日、詳細をご案内致します。

### 4. シンポジウム

11月28日（土）14:00～16:00

Zoom によるオンライン開催といたします。

※会員・参加者には、後日、参加方法をご案内致します。

### 5. 総会

総会資料はウェブ上で限定公開と致します。

※後日、詳細をご連絡いたします。

### 6. 情報交換会

今回は、中止と致します。

## 自由研究発表

1. アーミッシュの教育と熟慮民主主義そして批判的思考力  
○浅沼 茂 (立正大学)
2. 米墨国境地域の学校と教員  
—2020年2月のフィールド調査をもとにして—  
○市川 桂 (都留文科大学)
3. アメリカ TESOL の歴史と動向に関する若干の考察と課題  
○上原 義正 (オクラホマ州オクラホマシティー大学日本代表者)
4. シカゴ学院における地理学習  
—その内容と方法—  
○岡田 直俊 (豊川市立八南小学校)
5. 全米ミドル・レベル教育協会 (AMLE) が推奨する遠隔教育  
—2020年新型コロナウイルス感染症対策期の取り組みについて—  
○岡村 千恵子 (京都外国語大学)
6. チャータースクールの規制強化と「非通学」の日常化  
○佐々木 司 (山口大学)
7. 米国 AVID プログラムに対する生徒及び教員の意味づけ  
—ミドルスクール及び高校での授業観察と聞き取り調査から—  
○新谷 龍太郎 (平安女学院大学短期大学部)

8. カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格試験  
—CTEL と CSET に着目して—  
○末藤 美津子（東洋学園大学）
  
9. 米国才能教育における FAPE 保障の法的限界性  
—ギフトド関連訴訟の分析を通して—  
○関内 偉一郎（東邦大学非常勤）
  
10. シカゴ大学時代のデューイの教授過程論の構造とその思想的基盤  
○中村 仁志（岡崎女子大学）
  
11. 米国ハイスクールにおける進学とキャリア双方への準備  
—小規模学習共同体としてのキャリア・アカデミーに着目して—  
○西 美江（関西女子短期大学）
  
12. メリアムのミズーリ大学附属初等学校におけるカリキュラム実践  
—学科「物語」に着目して—  
○西野 雄一郎（愛知教育大学）
  
13. アメリカの高等教育機関における教員養成のカリキュラム  
教職課程の理論と実践に焦点をあてて  
○星野 真澄（筑波大学）
  
14. 20 世紀初頭のアメリカにおける「社会の統計化」の展開とその意義  
○松下 晴彦（名古屋大学）

15. 「長期欠席」に対するカリフォルニア州政府の政策的スタンスと学校改善としての視座  
— 「学校ダッシュボード」と「差異化された支援」との関連に着目して—  
○宮古 紀宏（国立教育政策研究所）
16. 教育におけるエビデンス産出の可能性とその限界  
— 道徳教育の展望を探る—  
○宮本 浩紀（茨城大学）
17. 言語教育における英語のうたあそびの有用性に関する一考察  
— 日米の Education Through Music（ETM）の実践事例を通して—  
○村松 麻里（金沢学院大学）

## アメリカ教育学会第 32 回大会 シンポジウム

### 公正とエクセレンスを追求する米国の公立学校改革

日 時：2020 年 11 月 28 日（土） 14:00～16:00

開催方法：Zoom によるオンライン開催

#### 【趣 旨】

近年、経済協力開発機構（Organisation for Economic Co-operation and Development: OECD）の「生徒の学習到達度調査（Programme for International Student Assessment: PISA）」の結果等から、貧困や移民に関する学習達成のデータが収集・分析され、優れた教育として、平等な教育システムや教師の専門的な能力の向上がますます着目されるようになってきている。公正で質の高い教育を追求する学校改革は世界共通の教育課題であるが、米国においては、公正（equity）とエクセレンス（excellence）の追求は、古くて新しい課題である。

そこで、これまでの連邦政府の政策や州による学校改革の方策、そして、近年の都市部の公立学校改革の教育実践から、エクイティとエクセレンスがどのように表れ、追求されているかについて考えたい。

#### 【提 案】

趣旨説明：エクイティとエクセレンスを捉える視座（黒田 友紀・日本大学）

報告①連邦政府と州の教育政策から捉えるエクイティとエクセレンス

（長嶺 宏作・帝京科学大学）

報告②サンフランシスコ統合学区における公立学校改革

（北田 佳子・埼玉大学）

#### 【司会・コーディネート】

黒田 友紀（日本大学）

※当日の報告資料は、後日共有いたします。

## アメリカ教育学会第 32 回大会プログラム

2020 年 11 月 10 日発行

発行者 アメリカ教育学会第 32 回大会準備委員会  
委員長 黒田 友紀（日本大学）

〒247-8501

千葉県船橋市習志野台 7-24-1

日本大学理工学部